

授業科目名	人体病理学・腫瘍学
科目番号	01ER239
単位数	2 単位
標準履修年次	1 年次
時間割	秋 AB、金 4,5 (Room 119, 4B Building, Medical Area)
担当教員	加藤光保、鈴木裕之、渡邊幸秀、沖田結花里、野口雅之、小田竜也、河合弘二、水口剛雄、千葉滋
授業概要	人体病理学・腫瘍学では、学生が循環障害に関わる基礎疾病（浮腫、血栓症、梗塞など）、炎症、腫瘍について、原因、病理、形態変化の面で理解できるように学修を進める。病理学的な理解を通じて、学生は人の <i>in vivo</i> での現象について理解することができるようになる。
備考	英語で授業を実施する
授業形態	講義
教育目標との関連	<p>学生は人体病理学・腫瘍学に関する健康安全保障について、以下の目標を達成することで学習する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 循環疾患を説明できる。</li> <li>2. 炎症の定義、分類、形態変化、時系列について説明できる。</li> <li>3. 細胞障害と細胞死について種類とプロセスを説明できる。</li> <li>4. 組織修復と適応について説明できる。</li> <li>5. 良性と悪性の腫瘍とガンについて定義を説明できる。</li> <li>6. ガンの局所的成長と転移について説明できる。</li> <li>7. ガンの臨床病期について説明できる。</li> <li>8. 主要なガン遺伝子とガン抑制遺伝子について説明できる。</li> <li>9. 主要なガンと各組織・器官での関連疾患について説明できる。</li> <li>10. ガンの疫学・治療・予防について現状を説明できる。</li> </ol>
授業の達成目標	ヒトの病気に関連する、細胞、組織、器官レベルでの、組織学的、生化学的、機能的な変化を理解することができる。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病理学概論（加藤光保）</li> <li>2. 組織の恒常性と再生（加藤光保）</li> <li>3. 細胞障害と細胞死（鈴木裕之）</li> <li>4. 退化、過形成、肥大（鈴木裕之）</li> <li>5. 循環障害 I（加藤光保）</li> <li>6. 循環障害 I I（加藤光保）</li> <li>7. 炎症 I（加藤光保）</li> <li>8. 炎症 I I（加藤光保）</li> <li>9. 発ガン（鈴木裕之）</li> <li>10. ガン抑制遺伝子（鈴木裕之）</li> <li>11. ガンのホールマーク（渡邊幸秀）</li> <li>12. ガンの浸潤と転移（沖田結花里）</li> <li>13. 診断病理学（野口雅之）</li> <li>14. 肺癌（野口雅之）</li> <li>15. 胃癌と大腸癌（小田竜也）</li> <li>16. 膵臓ガンと肝細胞ガン（小田竜也）</li> <li>17. 腎臓、膀胱、前立腺のガン（河合弘二）</li> <li>18. 女性器のガン（水口剛雄）</li> <li>19. 白血病と関連疾患（千葉滋）</li> <li>20. ガン幹細胞（加藤光保）</li> </ol>

履修条件	
成績評価方法（割合・評価基準・提出期限等）	授業後の小テスト（50%）、期末レポート（50%） A+： 90 点以上（トップ 10%） A： 80 点～89 点（上位 20%） B： 70 点～79 点 C： 60 点～69 点 D： 不合格（60 点未満）
授業外における学習方法	教科書を読む。ヴァーチャルスライドを使用して組織病理学を学ぶ。
教材・参考文献・配付資料等	Robbins and Cotran, Pathologic Basis of Disease 9 <sup>th</sup> edition. Kumar, Abbas, and Aster ed., Saunders, 2015
オフィスアワー	加藤光保：mit-kato@md.tsukuba.ac.jp 電子メールにてアポイントを取ること。
その他（学生に望むこと等）	
関連科目	
キーワード	